

はじめに

私は顔や肌、身体を美しく健康的に整えるエステティックの仕事で長年行ってきました。

そんななかで顔の施術を行いながら、心地よくおやすみになっている顔を見ていると自分も安らかな気持ちになります。

施術が終わったあとにお客様が、ご自身のつやつやになった素肌や、キュッと引き締まった顔を見て喜ばれていると、私自身もとても幸せでうれしくなるものです。

23歳から美容の道に入って独立開業、今でも大切なお客様のケアをさせていただきながら、また長いお付き合いの門下生さんたちと楽しいお付き合いを続けています。

私が「顔」に興味を持ち、その探求に力を注ぐことになったきっかけは、サロンにいつも来てくださっていた、あるお客様のお顔のマッサージをしていたときのことです。

その女性の眼からぼろぼろと涙があふれてきました。コットンでその涙をおさえながら「このまま続けていて大丈夫ですか」と問いかけると、「ごめんなさい。長く続けてきたテ

ニスをもうやめるのですが絶対に負けたくない最後の試合に負けてしまって悔しくて情けなくて涙が出てきてしまいました」と。

施術が終わってお帰り際に「今日はありがとうございました。いろんな気持ちが洗い流されてスッキリしました」とキラキラした笑顔でおっしゃいました。

この瞬間から顔は感情の源であること。顔をケアすることでその人のこころの内に触れることができるのではないかと。私の「顔への想い」が始まったのです。

さて、人はうぶ声をあげてこの世に生まれたとき、大きな黒い瞳、小さな口や鼻、ふわふわの頬、小さな手や足はなんともかわいらしいものです。

少しずつ自我が目覚めていくにつれて親から受け継いだDNAに基づいた顔立ちが明確になっていくのですが、年齢を経ていく間にその顔立ちのうえにその人なりの人相が表れていきます。

たとえばうり二つといわれるぐらいに似た双子であっても、歳を重ねるにつれて、もちろん、髪型の違いやファッションの違いもあるのですが、それぞれの顔にもなんらかの違いや特徴が表れていきます。なぜそうなるのでしょうか。

顔と体。全身を最も大きな機能で分けるとしたらこの二つになります。

顔は感情や感覚を表情によって作り出すところ、体は行動を作り出すところといえます。表情をつくっているのは顔の筋肉。行動を作り出す体には骨の動きが不可欠です。

表情はその人が今何を感じてどう思っているのかを意識的にも無意識的にも顔の筋肉が動いて表現されています。まさに「心情」を「表す」場所なのです。顔は小さな筋肉の集まりで日々刻々と表情をつくります。

人は毎日のいろいろな出来事に対してとらえ方や感じ方に癖があって、それによる顔の筋肉の動かし方にも癖があります。そういった感情による癖からその人だけにできる顔の筋肉の部分的なふくらみやへこみ、表情ジワがつくられていきます。年齢とともにそれが顕著になっていくのです。

顔は親から受け継いだDNAとしての人相と、その人が生きてきた心の表れとしての人相が相まって人となりをつくっているのではないのでしょうか。まさに「顔は人生のこころの歴史」なのです。

歩く道すがら、電車など、たくさんの人と交わる機会は常

にありますが、なんだかしかめ面の人、下向きで悩みを抱えているような人、口元に少し笑みを浮かべているような楽しそうな人、また、厳しそうな人、優しそうな人などいろいろな顔に出逢います。

人と出逢ったときの相手が元気のなさそうな顔をしていたり、しかめ面だったりすると話しかけにくいですね。

コミュニケーションが円滑にできるのは何よりもやはり笑顔なのです。

皆さんはご自身の顔をどう思っていますか。

「目がもっと大きかったら」「鼻筋が通っていたら」「口はもっと小さいほうが良かった……」など、なりたい希望はあると思います。

昨今の日本も美容整形を行うことをはばからない世の中になりましたが、持って生まれたこの顔を人生の中でどう使うか。

自分の体や心の健康、人との交流がもっと良くなるような、幸せを引き寄せられる「顔相」を自らつくることのできたら。

顔を深く掘り下げて幸せの顔相の作り方を一緒に考えてみませんか。